

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原四丁目1番15号
自己評価作成日	平成 29年 1月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、新居浜市上原の高台に位置し、豊かな山野の緑に囲まれ自然環境に恵まれた施設です。四季の織りなす美しい景色を感じる事ができる上大変眺めもよく、天気の良い日には新居浜市内だけでなく瀬戸内海の島々も一望する事ができます。  
木造平屋建てで木の温もりや香り、“和”を感じる事もでき、入居者の皆様は落ち着いた雰囲気の中、穏やかでゆったりとした毎日を過ごされています。  
一人ひとりの個性を重んじ、ホームの理念である「我家」である事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、広大な敷地に建つ木造平屋の建物で、どの共用空間も落ち着いた雰囲気、明るく清潔な環境である。職員は「和我家」という理念を掲げ、ほっとできる家庭のような場所、笑顔の多い事業所を目指して、利用者の有りのままを受け止め、役割を持って暮らせるよう支援している。利用者は自分専用の食器や箸で、見た目も美味しく盛り付けられた料理を楽しみ、元気の源になっている。手作りの味噌やポン酢を使用し、菜園で収穫した旬の野菜料理が加わることもある。隣接する法人施設で盛大に行われる盆踊りには多くの地域住民が参加し、菜園の収穫祭には地域の園児が訪れて利用者と一緒に楽しんでいる。また、経験豊かな職員を中心に、最期まで穏やかに過ごしてほしいという思いを持って、安らかな看取りケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)  
氏名 坂田 恵

評価完了日 平成 29 年 1 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理念、ユニットの理念を独自に作りあげた。全職員は理念を常に忘れることなく業務にあたり、壁に当たった時には原点に立ち帰るところでもある。</p> <p>(外部評価) 利用者が「我が家が見える」と言った言葉を受け止めて、「和我家」という事業所独自の理念を掲げている。さらに職員が話し合って「しあわせづくり」「十人十色」という各ユニット毎の理念を作り、ユニット入り口に掲示して周知している。職員は、ほっとできる家庭のような場所、一人ひとりに合わせた声かけや対応、笑顔の多い事業所を目指したいと語り、その実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行っている。離れている地域の方が月に一度小箱作りに来てくださり、ホームの方も一緒になって楽しまれている。</p> <p>(外部評価) 法人行事として行われる盆踊り大会には多くの地域住民の参加があり、交流の機会になっている。また、事業所の菜園で行われるじゃがいもやさつまいもの収穫祭には保育園児や幼稚園児が訪れて共に収穫を祝い、利用者に喜ばれている。他にも、あじさい祭り等地域行事の情報を得て、可能な限り参加して地域の人々と交流するよう努めている。</p>	行方不明になった利用者の捜索に町内会が協力するなど、良好な関係が築かれている。さらにその関係を生かして、外出して社会参加の機会を増やしたり、様々な地域の方々を訪ねてもらおう等、交流の機会が増えていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者が多い地域である為、施設に興味を持って下さる方がおられる。気さくに話が出来るような環境作り、職員の指導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、メンバーの方からのご意見・ご質問や情報発信が多く、事業所の活動やイベント等にも活かす事ができる内容のものもある。今後も、外部からの評価を真摯に受け止め、サービス向上に活かしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や自治会長、老人クラブ会長、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、職員が話し合っテーマを決め、学習や研修会報告を実施したり、ヒヤリ・ハットや、看取り実施報告を行い、意見や助言を得て業務の改善に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわれている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改善策等の話し合いをおこなっている。	
			(外部評価) 市担当課職員は運営推進会議に出席して事業所の状況を把握し、情報提供や助言等を行っている。市役所に出向き、ヒヤリ・ハットや事故報告を行って改善策について検討を行う等、困ったことがあれば相談ができる関係が築かれている。法人の職員が市担当課と緊密な連携を取っており、行政との信頼関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の施錠は安全対策の為におこなっている。施設外に出られる方がおり、職員的人数的に見守りが出来ない場合は、施錠をおこなう。	
			(外部評価) 拘束をしないケアを徹底しており、転倒骨折を防ぐために身体拘束もやむを得ないと考える家族とよく話し合い、拘束による弊害を理解してもらって見守りに努めている。退院直後転倒の危険がある利用者は、ベッドを低床にしてセンサーマットを活用したり、部屋に畳を敷き、布団に臥床してもらう等して事故防止に努めている。日中玄関は施錠しておらず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしている。	職員は利用者の誇りを損ねることがないように言葉遣いに配慮して接しているが、言葉による拘束については職員間で認識の違いも見られるため、改めて話し合い、共通の認識を持つ機会になることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「介護者のストレスから虐待が始まる。」と言われている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者やリーダーに伝わるような環境作りを行っている。一人で抱え込ませない事が大切である。ユニット会において勉強会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時前より家族の方は不安に思われている。入所契約時にわかりやすい説明を心掛けているが、入所時前後も不安や要望があればいつでも説明を行う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートを活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。  (外部評価) 管理者は家族との信頼関係を築くためには、コミュニケーションをよく取ることが重要であると考えており、機会を見つけて話し合いをするよう努めている。面会に訪れた際は利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き、介護計画にも反映させている。家族からの要望は連絡ノートに記録して職員間で共有すると共に、早期に対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。  (外部評価) 職員は、毎月開催されるユニット会議で意見や提案を出すことができている。管理者は職員が困難な状況に直面した時に相談ができる環境づくりをしたいと考えており、夜勤も含め日常業務に就いているためよく現場を理解した上で職員の話しを聞き、ストレスが溜まらないよう配慮している。また、法人内合同研修の機会があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 同法人内で行われている内部研修に参加。研修内容に応じて、外部研修にも参加している。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は機会が少なく現状ではできていない。交流機会があれば積極的に参加していく。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に、入所契約時の面接時等に精神面、肉体面、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寄り添うケアを重要視している。常に尊厳を持った態度で明るく接するように、職員教育を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院にカットに行かれたり、ドライブや買い物等に行かれている。ご主人の墓参り職員と行かれた方もおられる。家族が遠く離れている方は、家族の友人が来園される。個人情報大切にしながらも、一人ひとりが築いてきたものを大切にしていきたい。 (外部評価) 入居時の情報収集や日常の会話の中で利用者の馴染みの関係を把握している。地元出身の利用者が多く、知人が法人のデイサービスに来た時会いに行ったり、カラオケ大会に参加して喜ばれている。また家族が遠方の利用者には、馴染みの美容院へ職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後そういう事が発生した場合は、これまでの関係を保てるよう、色々な面で支援していきたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。  (外部評価) 職員は入浴介助時やテレビを観ている機会をとらえてゆっくりと話しを聴き、利用者一人ひとりの思いや意向を把握しようと努めている。難聴のため意思疎通が困難な利用者とはホワイトボードを使用して筆談を行ったり、思いを表すことが困難な利用者は表情や行動を見て推察したり、家族に聞く等して理解しようと努めている。聞き取ったことは連絡ノートに記録して職員が共有し、家族に代わって夫の墓参りに付き添ったり、希望に応じてカップ麺を食べる日を作る等、その実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌やケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。	
			(外部評価) 初期計画は計画作成担当者が作成し、毎月行われるユニット会議で職員が話し合ってモニタリングを実施、6か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。本人や家族の思いや意向を聞き取り、介護計画に反映するとともに、利用者ができることを見つけ出して力を引き出せる支援内容になるよう考慮している。介護計画は家族に説明し渡しており、遠方に住む家族へは、電話や帰省時に説明して了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域柄、買物等できる店もなく、坂道が多く、車での移動が多い。日頃の散歩等を通して、徐々に地域に溶け込んでいきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族(ご本人)の希望により法人の協力病院以外の訪問医療 を利用されている方もいらっしゃるが、良好な関係を保ち適 切な医療を受けている。家族が、病院受診に連れて行っ て下さる方が多い。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に継続して受診するこ とができるが、往診してもらえる協力医に変更する利用者が 多い。専門科外来は家族が付き添って受診しているが、困難 な場合は職員が同行する場合もある。協力医は24時間医療 体制を取っており、安心して適正な医療にかかることができ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や 相談に乗っていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院があり、日頃受診している為、顔なじみであり、入 居されている方も安心されている。何事も相談にのってい ただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には必ず家族に説明を行っている。特別な医療行為が ない限り、ホームでは看取りを行い、終の棲家であることを 知って頂く。家族の意向をお聞きし、方針を決定していく。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成し、開設よりすでに5名の方の看 取りを行っている。利用者が重度化した場合、医師と家族、 職員が話し合い、事業所ができることを説明したうえで、家 族の希望に応じて安らかな最期を迎えられるよう看取りケア を実践している。経験豊かな職員が多く、話し合いながら結 束して支援にあたったことが大きな力となっている。また、 法人内部で医療的知識を習得するための研修を行い、さらな る研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。全職員が対応できるよう文章化している。ユニット会において勉強会もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災計画書・災害対策マニュアルを作成している。消防署立ち合いでの避難訓練も行っている。土砂災害の避難訓練も隣接施設協力のもと行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。 (外部評価) 年2回日中と夜間を想定した避難訓練を行い、内1回は消防署が立ち合って実施している。火災の場合は、事業所は平屋で建物外に容易に避難することができるが、土砂災害に対しては、避難に時間を要するため法人内他施設職員の協力が得られるようマニュアルが作成され、合同で訓練を行っている。また、1週間分の備蓄品を用意し災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者ではなく、人生の先輩である事を職員全員が周知するよう、教育している。出来ること事は見守り、出来ない事を一緒にお手伝いするよう職員に伝えている。 (外部評価) 事業所では、入職時に接遇研修を実施しており、威圧的な態度をとることがないよう指導している。職員は利用者を人生の先輩だという認識を持って接するよう心がけ、特に言葉遣いに気をつけている。食事中汁椀を二度こぼした利用者に対し、誇りを傷つけない声かけをしていたのが印象的だった。トイレ誘導を行う際は近くでそっと声をかけたり、気づかれないように排泄後の始末をする等羞恥心に配慮している。また、入浴時同性介助を希望する利用者には配慮して応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴を心掛け、自己決定できるように職員間で根回しを行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思決定に添った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあげる事を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人のお箸、お茶碗、湯飲みが用意されている。食器は開設時に皆から寄付して頂いた、温かみのある陶器。皆が協力して楽しく食事作り、片付等を行っている。器、味、彩、量を考え、残食が出ないように考えながら調理している。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、主に専任の職員が調理している。自分専用の食器や箸が用意され、見た目も美味しく盛り付けられている。ほとんどの利用者が普通食を自力でゆっくり食べており、元気の源になっていると管理者は語っている。職員はゆったりと介助しながら共に食卓を囲み良い雰囲気である。手作りの味噌やポン酢を使用、菜園で収穫した旬の野菜料理が加わることもある。また、夏には竹を使用したそうめん流し、節分には食べやすいように工夫した巻き寿司を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) どうしても水分摂取は少な目になる。細目な水分補給を心掛けている。特に発熱時は脱水症状に陥らない為にも気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 現在、おむつ着用の方はおらず全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そと後始末を行っている。</p> <p>(外部評価) 各ユニット3か所に車いす対応のトイレがあり、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中、夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。入院中におむつを使用していた利用者も、退院後自立にむけた支援を行うことにより、トイレで排泄ができるようになっている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 夏場は水分が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。</p> <p>(外部評価) 一般家庭浴槽に、週2回を基本に入浴することができる。重度化に伴い、浴槽への移動が困難になっている利用者のために設備の増設も検討しているが、福祉用具を活用して工夫しながら入浴介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫する等して、無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴中はゆっくり話をしたり、時には歌を口ずさむなど入浴を楽しんでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるように、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 場所柄、坂道が多い為、転倒の危険性が多い。散歩などは、必ず職員が付き添う事としている。隣接のデイサービスに行かれていた方がおられ、時々、友人に会いに行かれている。  (外部評価) 天気の良い日は中庭や駐車場に出て日光浴をしたり、隣接する法人施設で行事がある時は出かけて行って参加している。また、福祉車輛を使用して桜やツツジ、紫陽花、紅葉等季節の花々の見物に出かける等遠出の機会を作り、なるべく外出できるように支援している。また、父の日には利用者の希望に応じてラーメンを食べに外出して喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望もあり、所持金は、事務所管理。お金の出入りが明確にわかるように、預り金としている。必要に応じて所持し買物されている。所持されている方は無くなってもいい金額を家族了承のもと持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できる環境である。精神状態等も考慮し、家族に連絡、話をして頂く事がある。頻繁にお孫さんから手紙を受け取る方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。</p> <p>(外部評価) 生花が飾られた玄関からユニットに入ると、吹き抜けで中窓のある明るく広々としたリビングがあり、椅子席やソファ席、畳コーナーが設置されている。利用者はオープンキッチンから聞こえる調理の音や匂いを感じながら、ぬり絵をしたり、箱づくりをしながら楽しそうにリビングに集っている。中庭には広いテラスがあり、日光浴をしながら景色を楽しむことができる。大きな菜園もあり、旬の野菜を収穫する楽しみがある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳でくつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられない。横になりたい時は居室に戻られ、誰かと話しをしたくなれば出てこられ、マイペースで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンと電動ベッド、床頭台が備えつけられており、どの部屋も思い思いの家具を持ち込んで、個性的な部屋になっている。洋服ダンスと整理ダンス、ソファ、鏡台が置かれた部屋は自宅の部屋と同じ雰囲気居心地が良さそうである。本棚に愛読書を飾っている利用者もいる。娘から毎月のように届く絵手紙や孫から送られた立体カードを大切に飾っていたり、クロスワードパズルが置かれているなど生活の匂いが感じられる部屋になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も声かけを行う。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原四丁目1番15号
自己評価作成日	平成 29年 1月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、新居浜市上原の高台に位置し、豊かな山野の緑に囲まれ自然環境に恵まれた施設です。四季の織りなす美しい景色を感じる事ができる上大変眺めもよく、天気の良い日には新居浜市内だけでなく瀬戸内海の島々も一望する事ができます。  
木造平屋建てで木の温もりや香り、“和”を感じる事もでき、入居者の皆様は落ち着いた雰囲気の中、穏やかでゆったりとした毎日を過ごされています。  
一人ひとりの個性を重んじ、ホームの理念である「我家」である事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、広大な敷地に建つ木造平屋の建物で、どの共用空間も落ち着いた雰囲気、明るく清潔な環境である。職員は「和我家」という理念を掲げ、ほっとできる家庭のような場所、笑顔の多い事業所を目指して、利用者の有りのまを受け止め、役割を持って暮らせるよう支援している。利用者は自分専用の食器や箸で、見た目も美味しく盛り付けられた料理を楽しみ、元気の源になっている。手作りの味噌やポン酢を使用し、菜園で収穫した旬の野菜料理が加わることもある。隣接する法人施設で盛大に行われる盆踊りには多くの地域住民が参加し、菜園の収穫祭には地域の園児が訪れて利用者と一緒に楽しんでいる。また、経験豊かな職員を中心に、最期まで穏やかに過ごしてほしいという思いを持って、安らかな看取りケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 坂田 恵

評価完了日

平成 29 年 1 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理念、ユニットの理念を独自に作りあげた。 全職員は理念を常に忘れることなく業務にあたり、壁に当たった時には原点に立ち帰るところでもある。</p> <p>(外部評価) 利用者が「我が家が見える」と言った言葉を受け止めて、「和我家」という事業所独自の理念を掲げている。さらに職員が話し合って「しあわせづくり」「十人十色」という各ユニット毎の理念を作り、ユニット入り口に掲示して周知している。職員は、ほっとできる家庭のような場所、一人ひとりに合わせた声かけや対応、笑顔の多い事業所を目指したいと語り、その実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行っている。離れている地域の方が月に一度小箱作りに来てくださり、ホームの方も一緒になって楽しまれている。</p> <p>(外部評価) 法人行事として行われる盆踊り大会には多くの地域住民の参加があり、交流の機会になっている。また、事業所の菜園で行われるじゃがいもやさつまいもの収穫祭には保育園児や幼稚園児が訪れて共に収穫を祝い、利用者に喜ばれている。他にも、あじさい祭り等地域行事の情報を得て、可能な限り参加して地域の人々と交流するよう努めている。</p>	行方不明になった利用者の捜索に町内会が協力するなど、良好な関係が築かれている。さらにその関係を生かして、外出して社会参加の機会を増やしたり、様々な地域の方々に訪問してもらう等、交流の機会が増えたいことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者が多い地域である為、施設に興味を持って下さる方がおられる。気さくに話が出来るような環境作り、職員の指導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、メンバーの方からのご意見・ご質問や情報発信が多く、事業所の活動やイベント等にも活かす事ができる内容のものもある。今後も、外部からの評価を真摯に受け止め、サービス向上に活かしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や自治会長、老人クラブ会長、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、職員が話し合っテーマを決め、学習や研修会報告を実施したり、ヒヤリ・ハットや、看取り実施報告を行い、意見や助言を得て業務の改善に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわれている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改善策等の話し合いをおこなっている。	
			(外部評価) 市担当課職員は運営推進会議に出席して事業所の状況を把握し、情報提供や助言等を行っている。市役所に出向き、ヒヤリ・ハットや事故報告を行って改善策について検討を行う等、困ったことがあれば相談ができる関係が築かれている。法人の職員が市担当課と緊密な連携を取っており、行政との信頼関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の施錠は安全対策の為におこなっている。施設外に出られる方がおり、職員的人数的に見守りが出来ない場合は、施錠をおこなう。	
			(外部評価) 拘束をしないケアを徹底しており、転倒骨折を防ぐために身体拘束もやむを得ないと考える家族とよく話し合い、拘束による弊害を理解してもらって見守りに努めている。退院直後転倒の危険がある利用者は、ベッドを低床にしてセンサーマットを活用したり、部屋に畳を敷き、布団に臥床してもらう等して事故防止に努めている。日中玄関は施錠しておらず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしている。	職員は利用者の誇りを損ねることがないように言葉遣いに配慮して接しているが、言葉による拘束については職員間で認識の違いも見られるため、改めて話し合い、共通の認識を持つ機会になることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「介護者のストレスから虐待が始まる。」と言われている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者やリーダーに伝わるような環境作りを行っている。一人で抱え込ませない事が大切である。ユニット会において勉強会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時前より家族の方は不安に思われている。入所契約時にわかりやすい説明を心掛けているが、入所時前後も不安や要望があればいつでも説明を行う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートの活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。  (外部評価) 管理者は家族との信頼関係を築くためには、コミュニケーションをよく取ることが重要であると考えており、機会を見つけて話し合いをするよう努めている。面会に訪れた際は利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き、介護計画にも反映させている。家族からの要望は連絡ノートに記録して職員間で共有すると共に、早期に対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。  (外部評価) 職員は、毎月開催されるユニット会議で意見や提案を出すことができている。管理者は職員が困難な状況に直面した時に相談ができる環境づくりをしたいと考えており、夜勤も含め日常業務に就いているためよく現場を理解した上で職員の話しを聞き、ストレスが溜まらないよう配慮している。また、法人内合同研修の機会があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 同法人内で行われている内部研修に参加。研修内容に応じて、外部研修にも参加している。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は機会が少なく現状ではできていない。交流機会があれば積極的に参加していく。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に、入所契約時の面接時等に精神面、肉体面、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寄り添うケアを重要視している。常に尊厳を持った態度で明るく接するように、職員教育を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院にカットに行かれたり、ドライブや買い物等に行かれている。ご主人の墓参りに職員と行かれた方もおられる。家族が遠く離れている方は、家族の友人が来園される。個人情報大切にしながらも、一人ひとりが築いてきたものを大切にしていきたい。 (外部評価) 入居時の情報収集や日常の会話の中で利用者の馴染みの関係を把握している。地元出身の利用者が多く、知人が法人のデイサービスに来た時会いに行ったり、カラオケ大会に参加して喜ばれている。また家族が遠方の利用者には、馴染みの美容院へ職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後そういう事が発生した場合は、これまでの関係を保てるよう、色々な面で支援していきたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。  (外部評価) 職員は入浴介助時やテレビを観ている機会をとらえてゆっくりと話を聴き、利用者一人ひとりの思いや意向を把握しようと努めている。難聴のため意思疎通が困難な利用者とはホワイトボードを使用して筆談を行ったり、思いを表すことが困難な利用者は表情や行動を見て推察したり、家族に聞く等して理解しようと努めている。聞き取ったことは連絡ノートに記録して職員が共有し、家族に代わって夫の墓参りに付き添ったり、希望に応じてカップ麺を食べる日を作る等、その実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌やケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。	
			(外部評価) 初期計画は計画作成担当者が作成し、毎月行われるユニット会議で職員が話し合っけてモニタリングを実施、6か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。本人や家族の思いや意向を聞き取り、介護計画に反映するとともに、利用者ができることを見つけ出して力を引き出せる支援内容になるよう考慮している。介護計画は家族に説明し渡しており、遠方に住む家族へは、電話や帰省時に説明して了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域柄、買物等できる店もなく、坂道が多く、車での移動が多い。日頃の散歩等を通して、徐々に地域に溶け込んでいきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族(ご本人)の希望により法人の協力病院以外の訪問医療を利用 されている方もいらっしゃるが、良好な関係を保ち適切な医療 を受けられている。遠方の家族が疎遠にならない為に、毎月病 院受診に連れて行って下さる方もおられる。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に継続して受診することが できるが、往診してもらえ協力医に変更する利用者が多い。専 門科外来は家族が付き添って受診しているが、困難な場合は職員 が同行する場合もある。協力医は24時間医療体制を取ってお り、安心して適正な医療にかかることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や相談 に乗っていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院があり、日頃受診している為、顔なじみであり、入居さ れている方も安心されている。何事も相談にのっていただいでい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には必ず家族に説明を行っている。特別な医療行為がない 限り、ホームでは看取りを行い、終の棲家であることを知って頂 く。家族の意向をお聞きし、方針を決定していく。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、開設よりすでに5名の方の看取り を行っている。利用者が重度化した場合、医師と家族、職員が話 し合い、事業所ができることを説明したうえで、家族の希望に応 えて安らかな最期を迎えられるよう看取りケアを実践している。 経験豊かな職員が多く、話し合いながら結束して支援にあたった ことが大きな力となっている。また、法人内部で医療的知識を習 得するための研修を行い、さらなる研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。全職員が対応できるよう文章化している。ユニット会において勉強会もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災計画書・災害対策マニュアルを作成している。消防署立ち合いでの避難訓練も行っている。土砂災害の避難訓練も隣接施設協力のもと行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。  (外部評価) 年2回日中と夜間を想定した避難訓練を行い、内1回は消防署が立ち合って実施している。火災の場合は、事業所は平屋で建物外に容易に避難することができるが、土砂災害に対しては、避難に時間を要するため法人内他施設職員の協力が得られるようマニュアルが作成され、合同で訓練を行っている。また、1週間分の備蓄品を用意し災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者ではなく、人生の先輩である事を職員全員が周知するよう、教育している。出来ること事は見守り、出来ない事を一緒にお手伝いするよう職員に伝えている。  (外部評価) 事業所では、入職時に接遇研修を実施しており、威圧的な態度をとることがないように指導している。職員は利用者を人生の先輩だという認識を持って接するよう心がけ、特に言葉遣いに気をつけている。食事中汁椀を二度こぼした利用者に対し、誇りを傷つけない声かけをしていたのが印象的だった。トイレ誘導を行う際は近くでそっと声をかけたり、気づかれないように排泄後の始末をする等差恥心に配慮している。また、入浴時同性介助を希望する利用者には配慮して応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴を心掛け、自己決定できるように職員間で根回しを行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思決定に添った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあげる事を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人のお箸、お茶碗、湯飲みが用意されている。食器は開設時に皆から寄付して頂いた、温かみのある陶器。皆が協力して楽しく食事作り、片付けを行っている。器、味、彩、量を考え、残食が出ないように考えながら調理している。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、主に専任の職員が調理している。自分専用の食器や箸が用意され、見た目も美味しく盛り付けられている。ほとんどの利用者が普通食を自力でゆっくり食べており、元気の源になっていると管理者は語っている。職員はゆったりと介助しながら共に食卓を囲み良い雰囲気である。手作りの味噌やポン酢を使用、菜園で収穫した旬の野菜料理が加わることもある。また、夏には竹を使用したそうめん流し、節分には食べやすいように工夫した巻き寿司を作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) どうしても水分摂取は少な目になる。細目な水分補給を心掛けている。特に発熱時は脱水症状に陥らない為にも気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 現在、おむつ着用の方はおらず全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そっと後始末を行っている。	
			(外部評価) 各ユニット3か所に車いす対応のトイレがあり、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中、夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。入院中におむつを使用していた利用者も、退院後自立にむけた支援を行うことにより、トイレで排泄ができるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 夏場は水分量が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に、週2回を基本に入浴することができる。重度化に伴い、浴槽への移動が困難になっている利用者のために設備の増設も検討しているが、福祉用具を活用して工夫しながら入浴介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫する等して、無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴中はゆっくり話をしたり、時には歌を口ずさむなど入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるよう、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 場所柄、坂道が多い為、転倒の危険性が多い。散歩などは、必ず職員が付き添う事としている。隣接のデイサービスに行かれていた方がおられ、時々、友人に会いに行かれている。 (外部評価) 天気の良い日は中庭や駐車場に出て日光浴をしたり、隣接する法人施設で行事がある時は出かけて行って参加している。また、福祉車輛を使用して桜やツツジ、紫陽花、紅葉等季節の花々の見物に出かける等遠出の機会を作り、なるべく外出できるよう支援している。また、父の日には利用者の希望に応じてラーメンを食べに外出して喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望もあり、所持金は、事務所管理。お金の出入りが明確にわかるように、預り金としている。必要に応じて所持し買物されている。所持されている方は無くなってもいい金額を家族了承のもと持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できる環境である。精神状態等も考慮し、家族に連絡、話をして頂く事がある。頻繁にお孫さんから手紙を受け取る方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。	
			(外部評価) 生花が飾られた玄関からユニットに入ると、吹き抜けで中窓のある明るく広々としたリビングがあり、椅子席やソファ席、畳コーナーが設置されている。利用者はオープンキッチンから聞こえる調理の音や匂いを感じながら、ぬり絵をしたり、箱づくりをしながら楽しそうにリビングに集っている。中庭には広いテラスがあり、日光浴をしながら景色を楽しむことができる。大きな菜園もあり、旬の野菜を収穫する楽しみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 昼でくつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられない。横になりたい時は居室に戻られ、誰かと話したくなければ出てこられ、マイペースで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。	
			(外部評価) 居室はエアコンと電動ベッド、床頭台が備えつけられており、どの部屋も思い思いの家具を持ち込んで、個性的な部屋になっている。洋服ダンスと整理ダンス、ソファ、鏡台が置かれた部屋は自宅の部屋と同じ雰囲気居心地が良さそうである。本棚に愛読書を飾っている利用者もいる。娘から毎月のように届く絵手紙や孫から送られた立体カードを大切に飾っていたり、クロスワードパズルが置かれているなど生活の匂いが感じられる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も声かけを行う。	